

植物多様性センターの「サイハイランの夏休み」

サイハイランは、エビネに似た大きな葉をつける雑木林や山地に自生する地生ランです。エビネが1年中しわのある厚手の葉をつけるのとは対照的に、サイハイランは、開花後には葉を枯らして休眠します。お盆明けごろから芽が出てきて、サイハイランの夏休みが終わったことがわかります。ちょうど今、奥多摩ゾーン落葉広葉樹林のコナラの林床で、新しい葉の芽吹きが観察できます。



5月中旬:大きな葉の根元から苞葉に包まれた花芽が芽吹く



5月下旬:細いベージュピンクの花を斜め下向きにつける



開花後:枯れた花茎を残し、葉は跡形もなく消える



8月下旬:枯れた花茎のもとから、新しい葉が芽吹く